

【根小屋エリアにおける構成要素】

根小屋エリアは、城下に相当するものと考えられ、遺構や遺物等から当時この場所で生活があったことが分かっており、家臣団の屋敷や寺院の存在が予測されている場所である。

本エリアには、屋敷の区割りを示す溝状遺構や城山川沿いの道路状遺構、建物跡や井戸跡などとともに、陶磁器類の遺物も出土している（図表 86、87）。

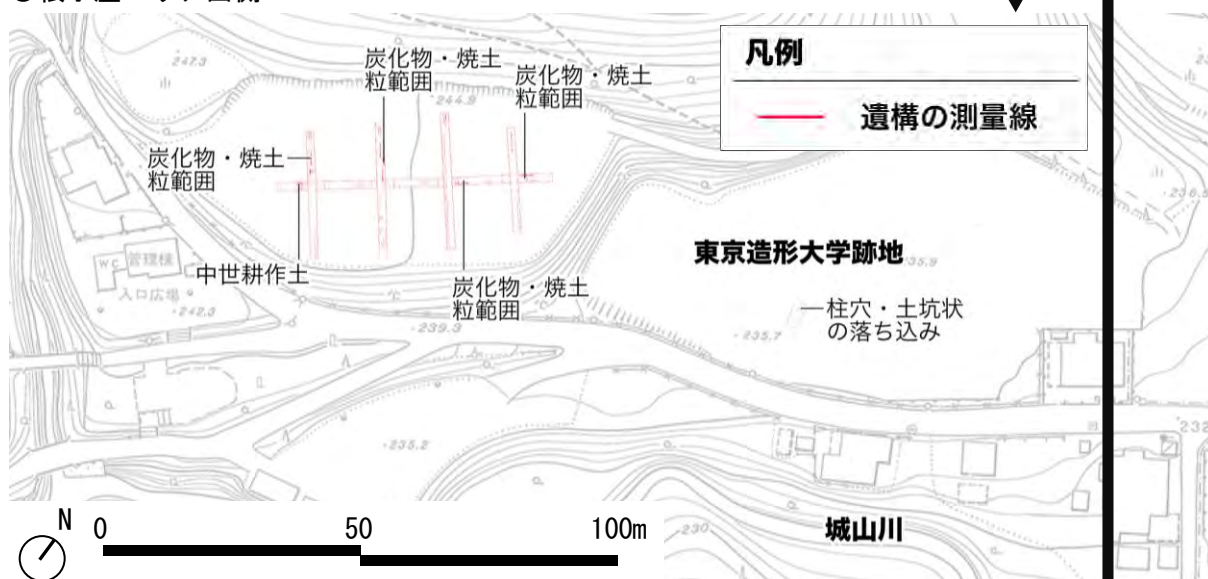


▲地上に表出している要素の位置（広域図）
* 広域図の拡大表示は P189 を参照

拡大表示

拡大表示

○根小屋エリア西側



▲図表 86 地下遺構の位置（根小屋エリア西側）〈赤線は遺構の測量線〉

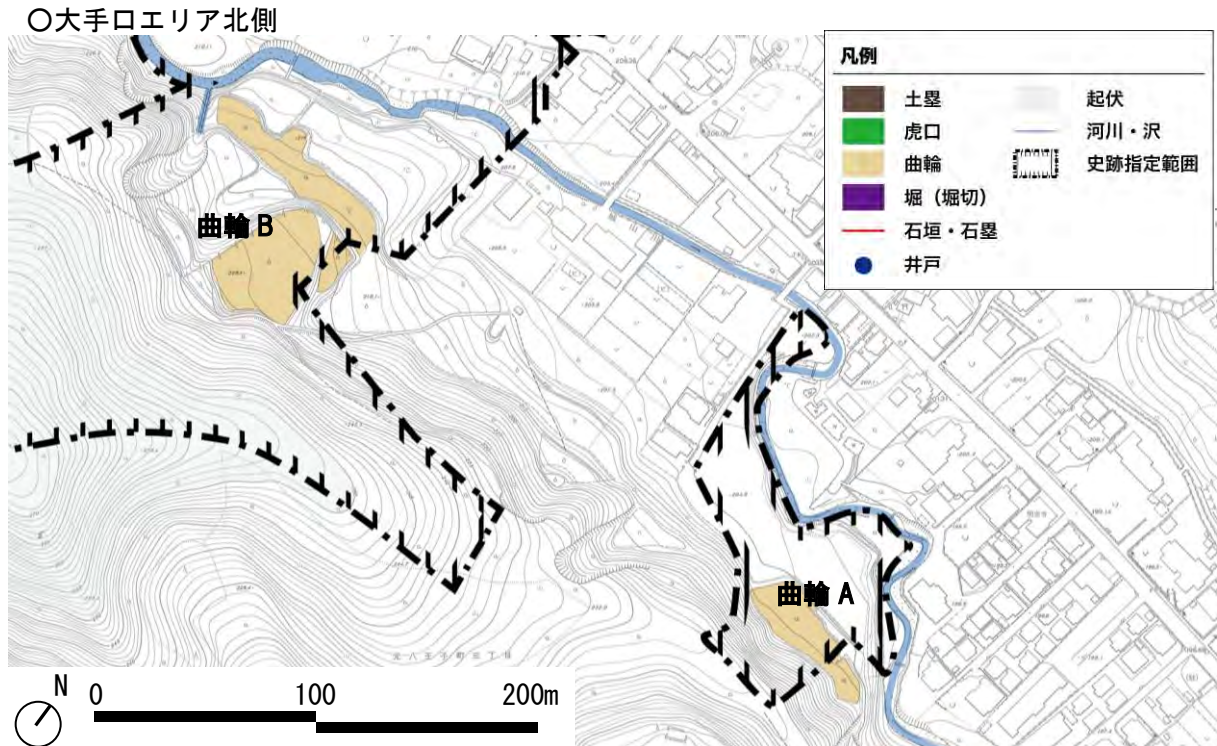
○根小屋エリア東側



▲図表 87 地下遺構の位置（根小屋エリア東側）〈赤線は遺構の測量線〉

【大手口エリアにおける構成要素】

大手口エリアは、太鼓曲輪エリアから北方に延びる丘陵の東端とその南側の台地に位置し、八王子城の南側の備えとして、防御上施設の存在が確認されている場所である。



▲図表 88 地上に表出している要素の位置（大手口エリア北側）

本エリアには、太鼓曲輪に至る尾根の北側斜面に大きく 2 つの曲輪が配されている（図表 88）。



▲地上に表出している要素の位置（広域図）

* 広域図の拡大表示は P189 を参照

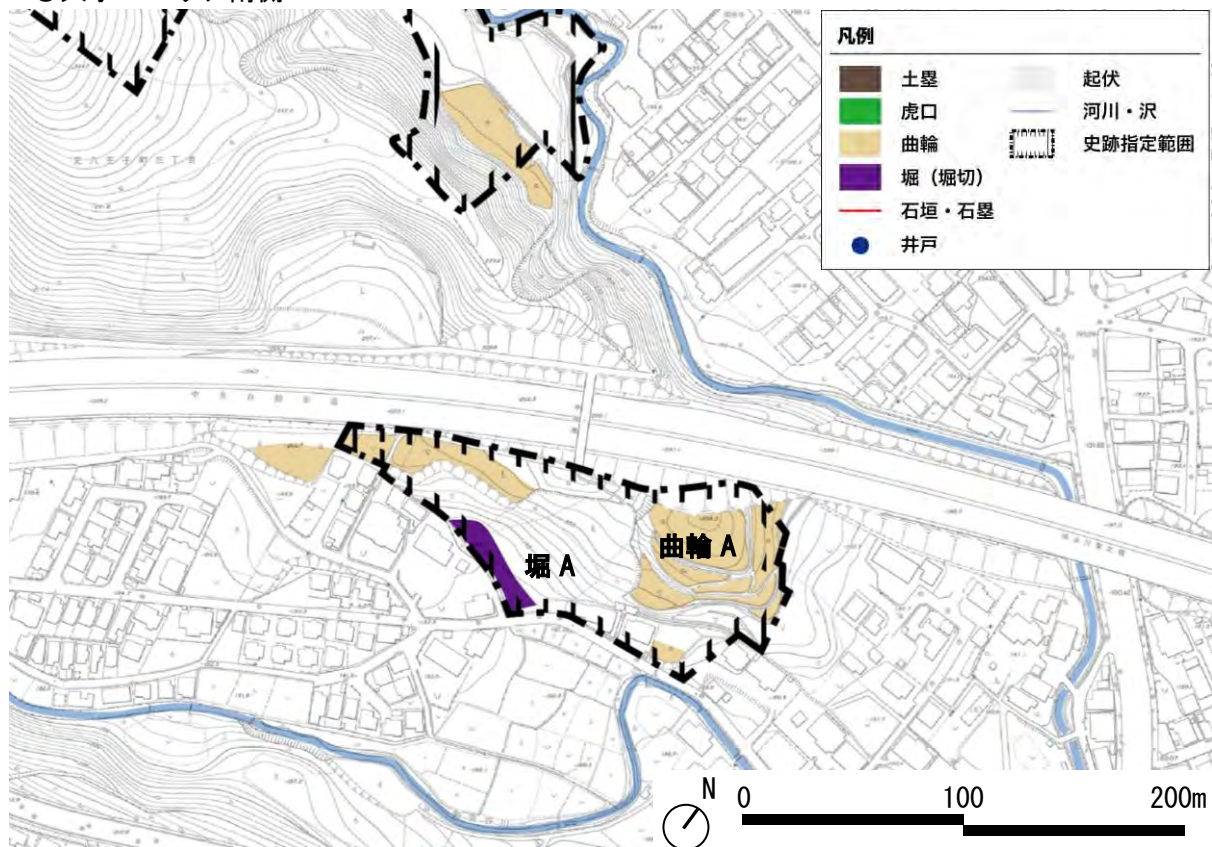


▲曲輪 A



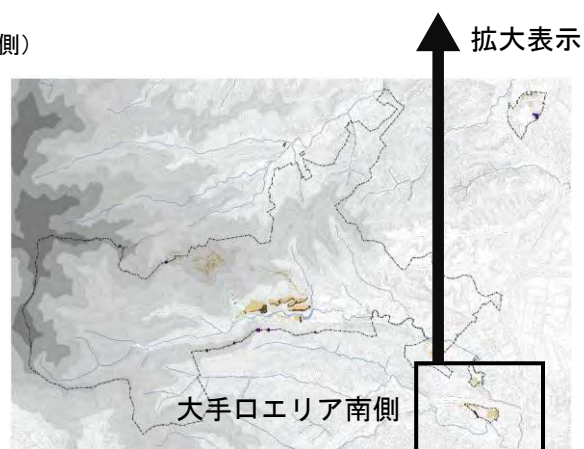
▲曲輪 B

○大手口エリア南側



▲図表 89 地上に表出している要素の位置（大手口エリア南側）

本エリアには、太鼓曲輪に至る尾根の南側斜面にいくつかの小さな曲輪、現在は土砂で埋まっている堀が配されている（図表 89）。



▲地上に表出している要素の位置（広域図）

* 広域図の拡大表示は P189 を参照



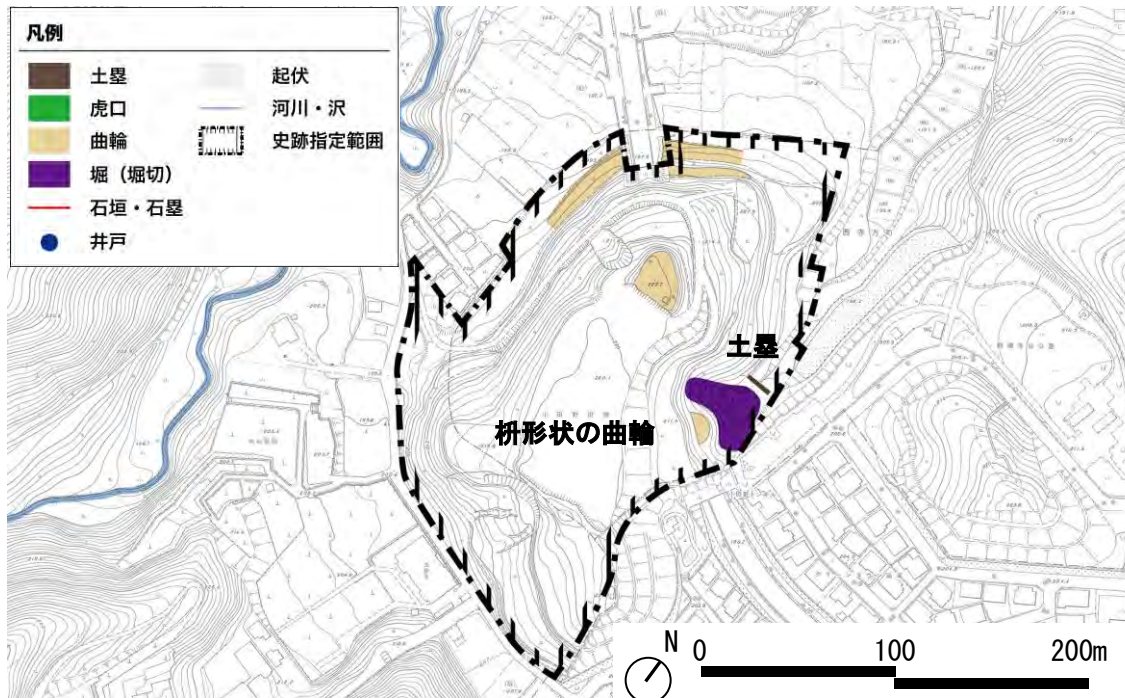
▲堀 A



▲曲輪 A

【伝小田野屋敷跡エリアにおける構成要素】

伝小田野屋敷跡エリアは、氏照の家臣小田野源太左衛門の屋敷跡と伝えられる場所である。



▲図表 90 地上に表出している要素の位置（伝小田野屋敷跡エリア）

本エリアには、このエリアの一番高い場所に曲輪が配され、北西側には腰曲輪が設けられている。南側には、橋形状の曲輪、空堀、土塁が見られる（図表 90）。



▲地上に表出している要素の位置（広域図）

* 広域図の拡大表示は P189 を参照



▲橋形状の曲輪



▲土塁

【搦手口エリアにおける構成要素】

搦手口エリアは、城の裏口にあたる場所である。

本エリアには、虎口とともに、それらを取り囲む土塁が配されている（図表 91）。



▲図表 91 地上に表出している要素の位置（搦手口エリア）



▲土塁 A

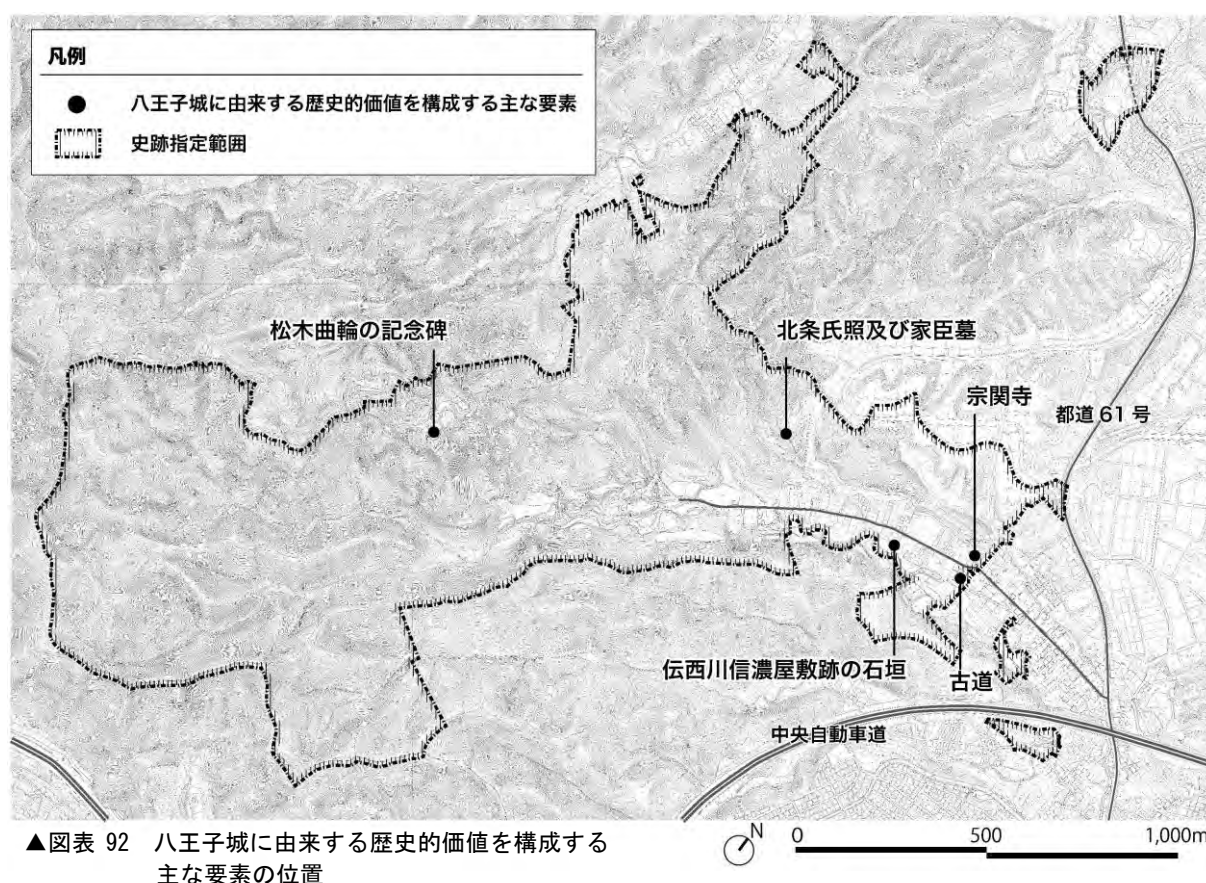
イ 八王子城に由来する歴史的価値を構成する要素

八王子城に由来する歴史的価値を構成する要素は、八王子城落城後に形成された北条氏照や八王子城に由来のある歴史に係る要素である（図表 92）。

城下にあたる根小屋エリアには、氏照や戦死者をまつるために再建された氏照の法号を持つ宗関寺、氏照の死後百年忌に氏照を供養するために建立された供養塔がある。また、落城後の城下には、近世以降に形成された伝西川信濃守屋敷跡や石垣などの生活を物語る遺構とともに、道路状の地下遺構が確認されている。『武蔵名勝図会』によると、西川信濃守は北条氏の御典医とされる。

八王子城跡の松木曲輪には、氏照の弟氏規の末裔により山頂へ記念碑が建立された他、城山を中心に山岳信仰の場として、山内には古道や山岳信仰を物語る石碑が点在している。

また、根小屋エリアを中心に近世以降の発掘されていない地下遺構・遺物が存在する可能性があり、これらは八王子城落城後の歴史を紐解くうえで大切な構成要素である。





▲宗関寺



▲北条氏照及び家臣墓（供養塔）
（都指定文化財）



▲松木曲輪の記念碑



▲伝西川信濃守屋敷跡の石垣



▲山岳信仰を物語る石碑



▲古道（宗関寺南側）

ウ 城山を母体に育まれた価値を構成する要素

城山を母体に育まれた価値を構成する要素は、八王子城落城後、城山をはじめとする豊かな環境により育まれた自然や人の営み・活動を係る要素である。

落城後、徳川幕府の直轄領として民衆が立ち入ることができなくなったこの地は、時を重ねる中で城山を中心に育まれた自然的要素がある。

本丸跡から詰城に至る南西部には、モミをはじめとする天然林が分布しており、都立高尾陣場自然公園の第1種特別地域に指定されている。また、山中にはリンボクやホソバカナワラビなどの周囲では見られない植物や、城跡後の時を重ねる中で育まれた古木や巨木が城山を中心に点在している。山中には育まれた自然を母体に様々な鳥や昆虫などの動物も生息している。



▲モミ林



▲古木・巨木



▲動物

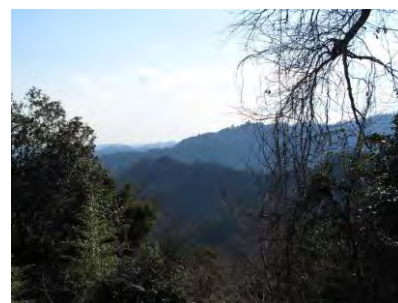
時間を経る中で育まれた自然は、ハイキングやバードウォッチングなどのレジャーの対象として、様々な人々の活動が見られる。これらの多くの人々の往来により、山中には様々な登山道が整備されている。このように多くの方が訪れるこの地の森林は、保健休養機能の高い森林として、保安林に指定されている。



▲ハイキング



▲登山道



▲森林

エ 八王子城跡の価値を保存・活用するために必要な要素

八王子城跡の価値を保存・活用するために必要な要素は、八王子城跡の価値を保存するための要素や、八王子城跡の価値を来訪者に知ってもらうための要素、八王子城跡の価値を総合的に活用するための要素がある。これらの要素は、八王子城跡の保存、活用をする上で大切な要素である（図表 93）。

八王子城跡の価値を来訪者に知ってもらうための要素は、広大な八王子城跡や城主北条氏照等を学ぶことのできる拠点施設であるガイダンス施設や、ガイドボランティアが来訪者を案内するための拠点となる管理棟がある。また、八王子城跡の価値を構成する要素を現地で学ぶことができる解説板や案内板、構成要素の場所へ案内するための誘導サインがある。八王子城跡は広大であるため、その全体像を分かりやすく把握できるよう模型が設置されている。



▲ガイダンス施設



▲管理棟



▲説明板



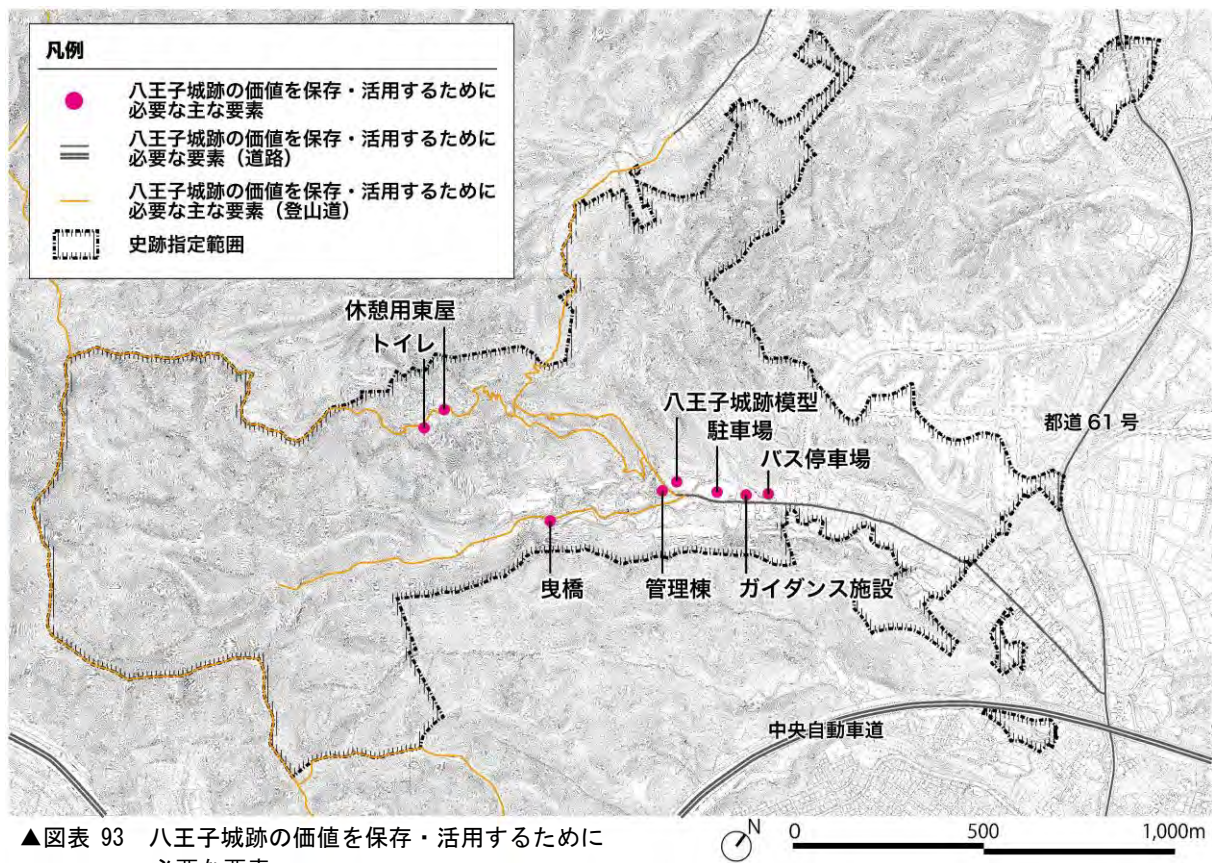
▲案内板



▲八王子城跡の模型



▲誘導サイン



八王子城跡の価値を総合的に活用するため、八王子城跡への交通アクセスである道路やバス停車場等がある他、八王子城跡内を回遊するための登山道などの管理用通路等がある。その他、来訪者を受け止めるため駐車場やトイレ、ベンチ等の便益施設や、来訪者の安全を確保するためのよう壁や消火用水等の災害対策用工作物がある。



▲道路



▲バス停車場



▲併用林道



▲駐車場



▲ベンチ



▲消火用水



▲トイレ



▲よう壁

オ 八王子城跡の価値を保存・活用するために共存が必要な要素

八王子城跡の価値を保存・活用するために共存が必要な要素は、文化財の保存、活用をするために各々が共存できるよう調整が必要な要素である。

八王子城落城後、時代を経る中で良好な環境を求めて、多くの方が移り住み、現在も居住している。この地の居住地では、自然環境と相まって農地や家庭菜園等が見られる。また、未開発地が多く残されていたこの地には、死者を埋葬し墓を建てる場として、八王子霊園が立地している。また、アシダ曲輪には福善寺が建てられ、その檀家衆により、慰霊の石仏なども建てられている。



▲住宅



▲農地



▲八王子霊園



▲福善寺

八王子城跡を構成する要素は、前述のとおり様々な構成要素により成り立っており、図表 94 に一覧を整理する。なお、これらの構成要素はそれぞれの要素の特性が大切であるとともに、これらが一体として表出する景観として捉える視点も重要である。

▼図表 94 八王子城跡を構成する要素一覧 (1/2)

要素の分類			名称	備考
八王子城跡を構成する要素	Ⅰ. 八王子城跡の中世城郭としての価値を構成する要素		土塁	地上に表出している構成要素
			虎口	
			曲輪	
			堀（堀切）	
			井戸	
			石垣・石塁	
			起伏	
			河川・沢	
			八王子神社	
			八王子城跡の遠景	
			曲輪からの眺望	
	Ⅱ. 落城後に形成された価値を構成する要素	Ⅱ－i. 八王子城跡に由来する歴史的価値を構成する要素	既知の地下遺構 （屋敷跡、建物跡、水路、井戸、庭園、道路跡、堀跡など）	地下に埋蔵されている構成要素
			検出されていない地下遺構	
			宗関寺	
			北条氏照及び家臣墓	都指定文化財
			松木曲輪の記念碑	
			西川信濃守伝屋敷跡の石垣	
			山岳信仰を物語る記念碑	
			古道	
		Ⅱ－i. 城山を母体に育まれた価値を構成する要素	近世以降の地下遺構 （道路、建物跡など）	地下に埋蔵されている構成要素
			モミ林	
			巨木・古木	
			草花	
			動物	
		Ⅱ－i. 城山を母体に育まれた価値を構成する要素	森林	
			登山道	

▼図表 94 八王子城跡を構成する要素一覧 (2/2)

八王子城跡を構成する要素	要素の分類		名称	備考
	Ⅲ. 価値の保存・活用に関係する要素	エ 八王子城跡の価値を保存・活用するために必要な要素	ガイダンス施設	
			管理棟	
			説明板、案内板、誘導サイン	
			八王子城跡の模型	
			道路	道路上工作物（電線類）を含む
			バス停車場	
			登山道	
			管理用通路	併用林道、曳橋など
			便益施設	トイレ、ベンチ、駐車場など
			災害対策用工作物 (火災、その他自然災害など)	消火用水、土砂災害用ネット、砂防ダムなど
		オ 八王子城跡の価値を保存・活用するために共存が必要な要素	住宅	
			農地	
			八王子霊園	
			福善寺	

3. 八王子城跡の保護に関する課題

遺構等の現状からみた課題や将来的に保護していくうえでの課題について、（１）調査研究、（２）保存管理、（３）整備活用、（４）防災対策、（５）法規制等の仕組み、（６）保存や活用を実現していくための体制、それぞれの観点から整理する。

（１）八王子城跡の調査研究に関する課題

八王子城跡の史跡指定地は約 160ha と広範囲にわたり、すべての地区の発掘調査を実施するには膨大な時間と費用、人員が必要であり、また、築城関連の資料が少ないなど、八王子城の全容を解明することは非常に困難である。一方で、築城から落城までの期間が短く、これまでに検出された城郭の構造や御主殿跡の庭園跡や建物跡などの遺構は、落城後にはほとんど人の手が入らず改変されている可能性も低い。これらの遺構やレースガラスや舶来の磁器などの遺物は、中世末期の戦国大名の文化や生活を知る上で貴重なものである。

八王子城跡の調査研究を進めていくうえで、本丸や御主殿跡などの城内の暮らしや戦の要となる場所、城郭の構造として中枢をなす区域について重点的に取り組むなど、重要な区域や優先順位づけを行い史跡の価値を見出し明確化していくことが必要である。特に御主殿跡内の庭園遺構は、日本の造園技術の歴史を解明するためにも優先的に調査研究を進めることが必要である。

（２）八王子城跡の保存管理に関する課題

先述にある通り、八王子城跡の中世城郭としての価値を構成する諸要素は曲輪や石垣等の遺構や、急峻な地形や河川、城からの眺望等様々な要素があり、それぞれの要素の特性に応じて適切に保存管理を進めるとともに、これらの歴史的な環境と自然環境が一体となった景観を保存管理していくことが重要である。

八王子城跡は、中世末期の東日本の城では珍しく石垣を多用している特徴があるが、地域内に生息するイノシシ等の野生動物や巨木の根の成長等により、石垣など遺構の破損が危惧されている。一方で、史跡指定地は東京都立高尾陣場自然公園に指定されており、山林等自然環境保全を目的としている。また、根小屋地区は落城後も住民が生活をしてきた地域で、現在でも住居等が立地しており、東部の一部が市街化区域に指定されている。史跡の保存管理を図る上で、史跡の保存と、樹木等の保全や居住環境の保全などが共存するための調整が重要である。

また、詰城からつながる石垣など史跡指定地外にも遺構がみられ、これらの土地所有者との協議調整等を通じて史跡指定地として追加・拡張するなど、適切に保存管理していくことが必要である。

（３）八王子城跡の整備活用に関する課題

現存する曲輪や石垣、発掘された建物跡などの遺構を適切に保存修理し、これらを八王子城跡の歴史的な価値への認知を高めるために活用していくことが必要である。

現在、本丸や金子曲輪の周辺など登山・ハイキングコースとして利用されており、ルート沿いの遺構の修理や安全な散策路の確保、あわせて保存整備された御主殿跡と連絡する散策路の確保など、城郭の構造を体感できるよう整備活用を図ることが重要である。また、関東山地の

東端に位置する八王子城跡からは関東平野が一望できると同時に、この眺望の範囲は戦国末期の城主氏照が支配していた地域であり、城主の眺めた景色として、往時の歴史的環境を体感し、その価値を認知できるよう景観整備に努めることが望ましい。

また、史跡の保存・活用に係る通路や案内板等整備した諸施設について、定期的に点検、補修等を行い経年劣化に対応する等、安全性や景観等に配慮した取り組みが必要である。

これまで八王子城跡の認知を高める取組として、市民ボランティアによる来訪者の案内や地元住民による北条氏照まつり等のイベントが大きな役割を果たしてきた。今後の整備とともに、地域住民や活動団体等と一緒に八王子城跡の認知を高める取組をさらに進めることが重要である。

（４）八王子城跡の防災対策に関する課題

八王子城跡は急峻な地形に位置し、発掘調査や保存・活用に係る整備にあわせて、風水害や地震等による土砂崩れ防止など防災・減災対策を講じていくことが重要である。また、史跡の過半が山林であり、ガイダンス施設の整備や、今後散策路や登山道の整備により来訪者の立ち入りが増加することが予想され、山火事の予防など防火対策について強化していくことが重要である。ただし、要害地区など消防水利の確保が困難であり、雨水貯留など適切な対応が必要である。

また、八王子城跡は、史跡への観光のみならず、登山やバードウォッチなど来訪者の目的は様々であり、近年、来訪者の増加に伴うマナーの問題も懸念される。史跡の保護や、歴史文化への関心や理解につながるよう適切な情報発信等普及啓発が必要である。

（５）法規制等に関する課題

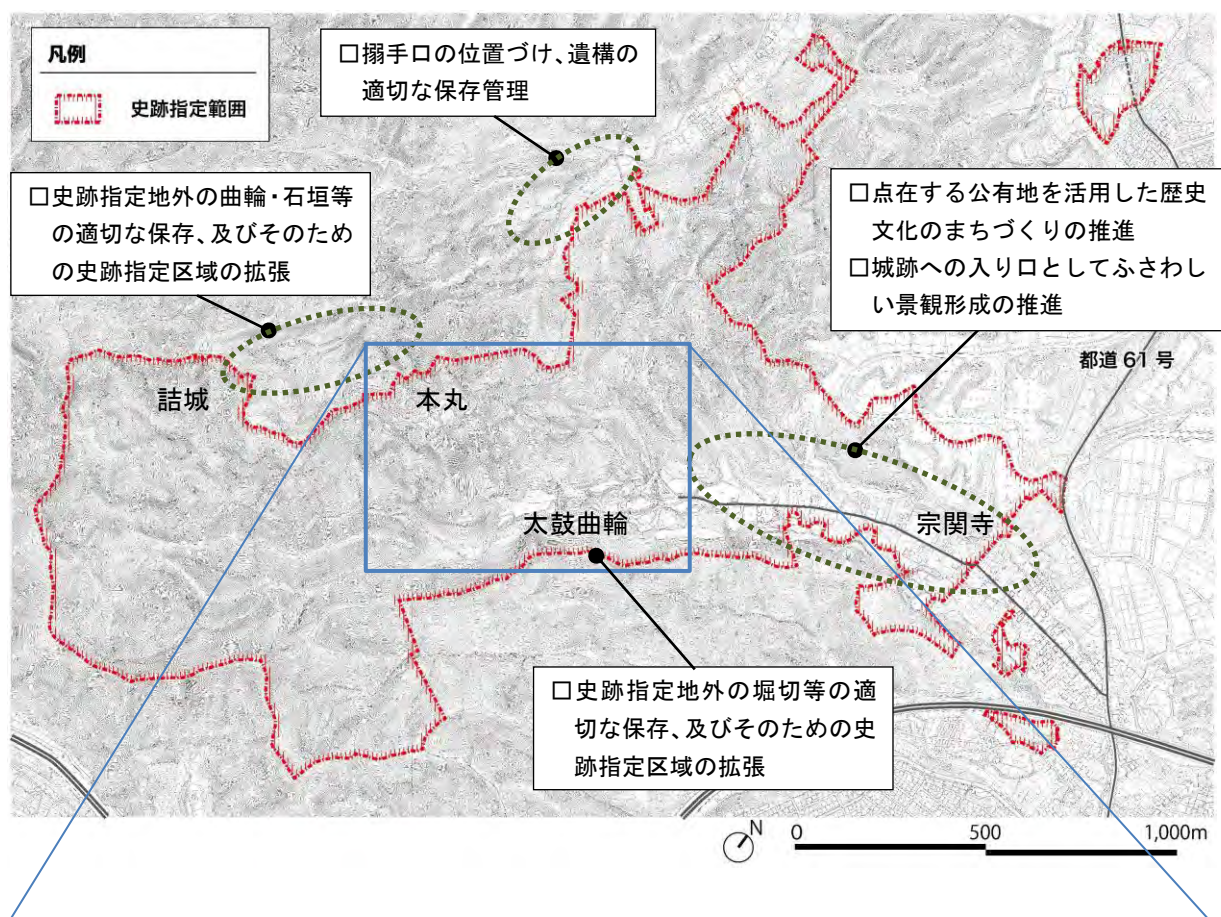
先述にもある通り、史跡指定地と自然公園区域、一部市街化区域の指定など目的の異なる土地利用等規制が重複しており、史跡の保護と自然環境や市街地環境の保全等との共存・調和を図っていくことが重要である。

また、本市の都市計画マスタープランにおいて、八王子城跡は歴史・風致拠点として位置づけられており、本市を代表する歴史・文化として史跡の歴史的価値を保存し、豊かな自然環境保全との共存・両立を図っていくことが重要である。

（６）保存や活用を実現していくための体制等に関する課題

八王子城跡の史跡指定地は国有地や都有地、民有地など多くの土地所有者が存在し、また各種法規制が指定されているため、上記の各課題への対応にあたっては、関係機関や関係者に史跡の保護への理解を高めるよう普及啓発、協議調整に努めることが重要である。

八王子城跡の歴史的な解説や散策など、現在はガイドボランティアの方々による対応が主となっており、案内板の設置等のみならず様々な交流を通じて、歴史的な価値への認知、理解を高めていくことが重要である。八王子城跡には多様な目的で訪れる人が多く、史跡のガイドなどの活動拠点として、ガイダンス施設の多様な活用方策を検討するとともに、飲食や買い物等多様なニーズへの対応に努めていくことが必要である。このような対応を進めていくにあたり、本市の八王子城跡を担当する体制を強化していく必要がある。



4. 八王子城跡の保護の基本的考え方

(1) 基本的考え方

八王子城跡の保護は、中世末期に築城された八王子城跡の中世城郭としての価値を堅実に保存しつつ、その価値を高め顕在化していくように活用し、次代に継承していくことを目指すものである。さらに、八王子城跡の落城後、長い年月を経て城山を母体に育まれた樹林地や、暮らしやレクリエーションなど人々の営み・活動の場として付加された価値とともに史跡の価値を高め、本市の歴史や文化を継承した魅力ある歴史・文化の拠点形成に努めていくものとする。

【基本的考え方の視点】

- 八王子城跡の中世城郭としての価値を堅実に保存し、次代に継承するとともに、本市の歴史文化のまちづくりをけん引する拠点づくりを目指す
- 学術研究の推進やその成果を踏まえた適切な保存・活用により、歴史的な価値に対する多くの人々の認知や理解を高める
- 史跡の保護を優先しつつ、登山やレクリエーションなど多様な利用形態との調和により、八王子城跡の価値や魅力を高める
- 安全面にも配慮した適切な維持管理により、安全で楽しく八王子城跡の歴史的な価値を体感できる場づくりを目指す
- 関係諸機関との連携や、関連する法規制・諸計画の相互調整を図り、八王子城跡の歴史的な価値の総括的な保存・活用・管理を目指す
- 八王子城跡の歴史文化を継承し、地域の愛着や誇りを育むことで、地域主体の活動による持続的な史跡の保存・活用につなげる

(2) 保護の推進に関する考え方

八王子城跡の史跡指定地は約 160ha と広大な面積を有し、また、指定地内は土地所有や法規制など関係者が複数存在し、発掘調査等による遺構の解明がなされていないところも少なくない。そのためにも、八王子城跡の保存・活用は、条件が整った場所から段階的に取り組んでいく必要がある。

前述の基本的考え方のもと、八王子城跡の保護を次のように進めていくこととする。

○八王子城跡の中世城郭としての価値を構成する要素の中で重点的に保護する場所・優先順位を決定していく

- ・中世末期の時代の変革期に築城され、当時の様相をよくとどめ現代に伝えている中世山城の城郭構造や居城、庭園などの遺構等を堅実に保存し、その歴史的な価値の顕在化を優先して取り組む。
- ・八王子城跡の中核であり、歴史遺産として象徴的な要害地区及び居館地区を重点的に保存・活用を図る区域とし、中世末期の城郭の構造や築城技術、生活・文化が体感できるよう保存等整備を図る。
- ・御主殿北西部に検出された池泉を中心とする庭園遺構は、城郭としての価値のみならず、造園後わずかな期間で落城したため、往時の技術や文化がより鮮明に残されている状態で、

歴史的・学術的に貴重な遺構である。そこで、今後はさらなる発掘調査を推進し、往時の姿の復元を目指す。

○八王子城跡の価値への認知・理解を高める

- ・八王子城跡の中世城郭としての価値の保存を優先しつつ、その後の歴史的経過や城山を母体に育まれた価値との調和を図るため、歴史や文化、自然、そしてこれらの場の活動など、多様な価値観を多角的に捉え、史跡の保存・活用を図る。
- ・八王子城跡の歴史的な価値に関する適切な情報発信や、歴史的環境が体感できる保存整備などに努めるとともに、地域住民や活動団体等によるガイドボランティアやイベント等と連動した取組を進めることで、多くの市民や地域住民、多種多様な目的で訪れる人々の歴史文化遺産としての認知、理解を高める。
- ・今後の発掘・学術調査を進めていく中で、貴重な歴史的価値を有する遺構等の検出も想定されるため、目に見えない遺構など地域の歴史文化遺産への理解を高めるとともに、その調査成果に応じた保存や情報発信等を行う。
- ・八王子城跡は、図表 96 に示す通り様々な要素が組み合わされることで総体としての景観が表出しており、来訪者が歴史環境を体感できるよう景観形成を図る。

○様々な関係者の相互の協力により八王子城跡の保護を図る

- ・史跡の保護を図る上で、土地所有者の理解と協力、各種法規制の調整等が必要であり、市民、事業者、行政が八王子城跡の価値を理解し、相互に協力することで、その価値を保存・活用・管理する。
- ・八王子城跡の中世城郭としての価値を損ねることのないように保存・継承しつつ、地域の歴史・文化として積み重ねていけるよう魅力ある地域づくりを目指す。
- ・八王子城跡の保存・活用・管理を持続可能なものとしていくため、地域が共感できる保存・活用を図るとともに、次代につなげていく担い手の育成に努める。